

なでしこ防災ネット活動状況

事業内容

1. 女性の視点からの防災・減災対策の普及・啓発活動
2. 「災害時の水の確保」井戸・湧水の現況調査と防災 MAP 作成、看板設置
3. 後継者育成のための研修
4. 東日本大震災・熊本地震への支援活動
5. 地球温暖化防止活動・環境保全活動

活動内容とその成果等

女性の視点からの防災・減災対策の普及・啓発活動

目的:女性の視点とネットワークを活かした防災対策の普及・啓発活動で災害に強いまちづくり

女性の視点からの防災対策

家庭や地域に密着している女性の視点と幅広いネットワーク(中学生や地域、行政、12 連携団体と協働)をいかした防災対策の普及・啓発を行っています。家庭における災害への備え、災害時の非常食や生活用水、トイレの確保など、主婦、女性の視点から家庭や地域での防災対策を解り易く提案し、楽しく実践しています。

女性ならではの防災

(1)防災体験ができるキャンプを実施

これまでの活動で最も力を入れているのが、サバイバルDayキャンプです。楽しみながら防災体験ができる実践型青空防災教室として、平成17年から実施しています。自分の命、財産を守るすべや、ライフラインが途絶えた環境で生き延びる術を身につけ、災害時に具体的な行動がとれるようにするのが目的です。キャンプでは、避難所、かまど、炊き出し、青空トイレ、応急手当等限られた材料や道具で参加者自身が作ります。ロープワーク、ペットボトルを使った浄水器づくりや緊急搬送訓練、青空地震教室なども行います。食材と場所は近隣の農家の人たちが提供してくれます。これまで27回開催し、毎回70~200人の参加があります。参加者は親子、高齢者、障害者、中高生など様々です。

(2)女性の視点からの防災リーフレットを作成

平成20年度は、内閣府などが行っている「防災教育チャレンジプラン」にも応募し、実践団体に選ばれました。女性の視点で防災・減災・災害に強いまちづくりを目指して活動を展開し、そこから得た知識や情報などを整理して、リーフレット「女性の視点からの防災対策」を作成しました(平成21年1月発行)。災害の被害を受けやすい一方で、防災・災害復興の担い手ともなる女性の立場から、家庭での日頃の備えと工夫、地震発生3秒・3分・3時間・3日の行動などを分かりやすくまとめ、防災教育チャレンジプランの防災教育特別賞を受賞しました。このリーフレットは、現在も防災講習のテキストとして市内だけでなく、県外でも使用されています。平成21年には日本全国からの依頼で16000部配付しました。

(3)「もしもの時の非常食」の発行

平成21年度は、災害時の「食」に注目し、地域性や想定される災害の状況にあわせて「食の備え」について考え、被災時の食事をただの栄養補給としてではなく、疲労やストレスの軽減、被災者間のコミュニケーションのツールとして役立ててもらうための冊子を作成しました(平成22年3月発行)。

水道、電気、ガスなどのライフラインが麻痺し限られた食材しかない地震発生直後、救援物資が届き出す3日後～7日後、避難生活が長引く7日後以降に分け、一般の食材に救援物資を取り入れておいしく工夫できる非常食レシピや、停電時のビニール袋炊飯方法などを紹介しました。冊子作成時には、「もしもの時の非常食コンテスト」を開催し、試作、調理を行い参加者とのコミュニティを深める場づくりを提供しました。また、寄せられた声を生かして新しいレシピの開発・改良もしました。この冊子も、防災講習のテキストとして広く活用されています。

地の利を活かした防災対策 (H29年度からは秦野市市民提案型協働事業として実施)

(1) 市内の井戸・湧水調査と防災地図の作成

平成22年度は、災害時の生活用水確保に向けて、秦野市内の井戸や湧水の調査を行いました。市には全国名水百選の“秦野盆地湧水群”があり、豊富で良質な湧水に恵まれています。市の10年に一度の調査時期と重なったことから市の全面的支援のもと、関係団体と連携して取り組みました。

調査対象の井戸・湧水は119か所に及び、中学生や高校生のボランティア80人や市内の地理に詳しい郵便局OBの協力なども得て一軒一軒回って調査しました。その結果、108か所から災害時に協力してもらえることになりました。型式や停電でも使用可能かどうか、水圧、使用状況、用途などを細かく調査し、「もしもの時の災害時協力井戸・湧水MAP」を作成しました(平成23年2月発行)。

個人情報保護に配慮し、地区限定版、市内版、市外も配布可能なもの、と掲載情報の内容を変えた3種類を作りました。また、ボランティア団体や障害者団体の協力で、点字訳版マップや手話・音声のDVDも作成しました。その取り組みでは、防災教育チャレンジプランで防災教育優秀賞をいただきました。

2018年～2019年度は秦野市市民提案型協働事業として取り組み133箇所から協力が得られ、新看板作成・設置、新しい防災地図作成しました。

(2) 地域の協力で「災害時井戸・湧水 協力の家」の看板設置

平成23年度は、災害時協力井戸・湧水の看板を設置しました。間伐材を活用して「災害時生活用水協力の家」の看板を作成し、112軒に届けました。看板設置運動に取り組むことによって、井戸の場所が一目でわかるようになり、防災意識の向上と地域との連携が更に深まりました。

また、登録件数が少ない自治会が「水」対策を真剣に協議検討するようになり、災害時の生活用水の確保について地域が本格的に取り組みはじめたことは予想以上の展開でした。2018年～2019年度は秦野市市民提案型協働事業として取り組み133箇所に看板設置しました。

行政、他団体との連携・協働で取り組み支援をうけた実績

(1) 女性ならではの防災

- ① 防災体験ができるキャンプを実施 27回 (H17年～H29年 連携12団体と 行政)
- ② 女性の視点からの防災リーフレット作成 (H20年度防災教育チャレンジプラン)
- ③ 「もしもの時の非常食冊子」の発行 (H21年度市民活動サポート事業)

(2) 地の利を活かした防災対策

- ① 秦野盆地湧水群非常時活用map作成 (H22年度防災教育チャレンジプラン)
- ② 「もしもの時の井戸・湧水の家」看板作成・設置運動 (H23年度市民活動サポート事業)

(3) 東日本大震災支援活動 (H24年から秦野市地域福祉課から補助)

(4) 秦野市市民提案型協働事業として『災害時の水の確保「災害時協力井戸」協力者拡大と看板リニューアル』継続中 (H29年から秦野市防災課から補助)

(5) 人材育成のための講座開催

H29年度：『防災リーダー養成講座』全5回開催。(H29年度市民活動サポート事業)

行政との共催事業

(1)防災講演

H24 年から 毎年3月の防災ボランティア週間に4者で開催。

主催:秦野市／秦野市自治会連合会／秦野市防火・危険物安全協会／なでしこ防災ネット

(2)防災指導員研修会 H23/6/25 H31/6/22

(3)親子防災キャンプ H29/11/19 H30/3/23

(4)防災訓練(中央会場)H30/9/2

かながわの明日を築く生活運動協議会に協力事業

1. あす築『県大会』開催

①H21年7月26日「あす築大会サバイバルDay キャンプ」 「広げよう防災の輪・和・話」 206人参加。

かまど作り～避難所設営まで体験。共催:平塚保健福祉事務所、秦野市防災課、自治振興課、ガールスカウト 51 団

② H27年2月22日あす築大会「食品ロスの削減・食品廃棄物の発生抑制研修」開催 60人参加

講話と「親子クッキング関連事業食品ロス削減eco-cooking」実習とアンケート結果展示

共催:秦野市清掃局、秦野ガス株、西地区福祉委員

③ H30.1.28 COOL CHOICE ワークショップあす築大会』開催。94 人参加

地球温暖化防止活動、食品ロスの削減、食品廃棄物の発生抑制に取り組むための講話と実技

eco-cooking 実習、温暖化防止機材の展示と体験、段ボールキューロ作り、AED 体験

共催:秦野市(環境産業部環境資源対策課・こども健康部健康づくり課)・秦野市食生活改善推進団体・県地球温暖化防止活動推進・委員伊勢原・秦野地区、秦野災害ボランティアネットワーク・神奈川県地球温暖化防止活動推進センター等々

④ H30.11.10 地球温暖化防止ワークショップあす築大会』開催。79人参加

eco-cooking 実習、温暖化防止機材の展示と体験、廃油でキャンドル作り

共催:秦野市(環境産業部環境資源対策課)・秦野市食生活改善推進団体・県地球温暖化防止活動推進委員伊勢原・秦野地区 秦野災害ボランティアネットワーク・神奈川県地球温暖化防止活動推進センター等々

2. 関東甲信越静岡ブロック研究集会「第2分科会 女性の視点から防災対策」を担当

防災講演会、災害時に役立つ諸体験:非常食(ビニール袋炊飯) ②キャンドル・灯り ③災害時のトイレ対策 ④賢い防災術

3. 日創協発行の「食品ロスレシピ集」H27年3月発行作成に協力

後継者育成事業 : チャレンジ THE ボランティア(中学生・高校生対象)

チャレンジ ! THE ボランティアは、ボランティア活動参加のきっかけづくりとして、市内の中・高校生を対象に、毎年実施している体験学習です。学校では体験できない貴重な夏休みの体験学習となっています。

① H20 年度～H23 年度:放課後・土日の都合がよい時間に西公民館に集合して「井戸・湧水MAP作成」「リスト作成」ボランティア活動

② H24年度からH30年度まで、毎年8月の第1日曜日に開催してきた。ロープワーク、三角巾の使い方から避難所設営まで体験

共催:秦野市役所防災課、市民自治振興課、秦野市民活動連絡協議会、市内中学校

③ 開催イベントの会場設営、受付、資料配布、片付け等の手伝い。

- ④ H26年10月18日 “「防災ワークショップ」災害時を想定してのサバイバル実習体験”開催
自ら考え、行動する参加型に内容を特化して、楽しく、そして、災害に負けない、たくましい地域の担い手を、地域をあげて育む。
場所:表丹沢野外活動センター 活動棟、調理実習室
共催:秦野市教育委員会、防災課、自治振興課、秦野市民活動連絡協議会、市内小中学校
講話、災害時の灯り作り、寒さ対策、ビニール袋で炊くごはん、災害時のトイレ作り、ペットボトルで浄水器を作ろう

1. 3・11 東日本大震災への支援活動を継続

「一人ひとりの思いをつないで震災復興を応援しよう！」

- ① 災害遺児義援金バザー 6回 484,857 円寄付
- ② 福島県復興支援ボランティアバスツアー 7回 市民 延数 240名動員
- ③ 東日本大震災義援金募金活動 6回 218,422 円寄付
- ④ 仮設住宅に救援物資仕を届けるプロジェクト 2回

2. 熊本地震への支援活動を継続

- ① 熊本地震義援金募金 H28.4.26 秦野駅改札口。327,666 円 5月6日熊本県へ送金
- ② 熊本地震支援活動ボランティア活動 H28.11.18～20日。H29.12.25～27日益城町

3. 震災復興支援活動はボランティアバスツアー7回実施し、240名を超える市民を被災地に動員。

- 1 回:仮設住宅に救援物資を届けるプロジェクト H23.9.10～11 女川針ノ浜仮設住宅からの物資提供依頼有
- 2 回:仮設住宅に救援物資を届けるプロジェクト H24.7.10 女川針ノ浜仮設住宅からの物資提供依頼有
- 3 回: // H25.8.28～29 綿農家農業支援 草取り、草刈、水やり
- 4 回: // H26.1.24 綿の収穫と片付けとサロン開催
秦野市の荒廃地で育て収穫した綿を小名浜地区復興支援ボランティアセンターに寄付をする活動
- 5 回:福島県いわき市小名浜地区復興支援ボランティアセンターH26.6.3 綿の種蒔き
- 6 回: // H27.2.23 綿のゴミ拾いと加工(人形作り)
- 7 回: // H27.10.3 綿の収穫。記録的な大雨で鬼怒川決壊の茨城県常総市、石下地区などを視察。

※ 秦野市から秦野市東日本大震災被災地支援ボランティア活動事業費補助金制度が3回目から有(交通費半額補助)

4. 東日本大震災義援金募金とバザーは秦野市防災課設営テント内を借りて、H23年から市民の日(11月3日)に6回実施し、合計 703,279円寄付。
共催(秦野市防災課、市民自治振興課、西地区、南地区、本町地区社協)

広 報

- 2011年 内閣府発行 広報「ぼうさい 夏号第63号」頁22～頁23
- 2012年 文部科学省 国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター発行
「社会教育における防災教育・減災教育に関する調査研究報告書」頁97～頁105
- 2013年 文部科学省 国立教育政策研究所 社会教育情報番組 H25年度「社研の窓」に掲載

2014年 内閣府発行「地域における防災教育の実践に関する手引き」頁43に掲載
第3回国連防災世界会議「防災教育交流国際フォーラム」でも本手引きを英語版・日本語版で紹介

受賞歴

2008年度	*防災教育チャレンジプラン*の実践団体に採択、防災教育特別賞を受賞
2009年度	神奈川県ボランティア活動奨励賞を受賞
2010年度	*防災教育チャレンジプラン*の実践団体に採択、防災教育優秀賞を受賞
2011年度	社会参加活動章を受章
2012年度	あしたのまち・くらしづくり活動賞 主催者賞を受賞
2016年6月21日	第18回日本水大賞 審査員特別賞を受賞
2018年6月26日	日創協運動推進功労会長賞